

令和6年度

事業名 社会教育・生涯学習関係職員等研修会【基礎講座】	
期 日 令和6年6月12日(木)	
参加者 59名	
趣 旨 社会教育・生涯学習関係職員の新任者等が、今後の社会教育・生涯学習の振興を図るために必要な基礎知識や資質・能力を身に付けるとともに、関係者のネットワークを構築する。	
活動の様子	
【説明】「本研修の趣旨について」	
社会教育総合センター調査・研修班 社会教育主事 瀬之口 紘史	
	<p>これからの社会教育・生涯学習関係職員に求められていることについて、最新の国の動向を踏まえて説明しました。現代は予測困難な時代と言われ、人口減少や少子高齢化などにより、人と人との関係性が希薄化、障がいがある人や外国人などの困難な立場にある人の問題が顕在化したりするなど様々な課題が指摘されています。その中で、社会教育・生涯学習関係職員は、「ウェルビーイングの実現」や「社会的包摂の実現」、「デジタル社会への対応」など新しい視点にも目を向けながら、今後も「学びを通じた『人づくり・つながりづくり・地域づくり』」を行っていくことが求められていることを共通理解しました。参加者からは、「大変わかりやすく、勉強になった。」「社会教育が今までよくわからなかったのが少しわかった気がする。」など社会教育に対しての基礎的な知識が得られたという感想が多く見られました。</p>
【研修1】ミニ講話「社会教育・生涯学習の基礎知識」	
社会教育総合センター調査・研修班 社会教育主事 「公民館の基礎知識」 高木 昇太 「社会教育委員の基礎知識」「家庭教育支援の基礎知識」 柴尾 裕夢 「地域と学校の連携・協働の基礎知識」 嶋本 光司 「青少年の体験活動の基礎知識」 瀬之口 紘史	
	<p>【研修1】では、「公民館」「社会教育委員」「家庭教育支援」「地域と学校の連携・協働」「青少年の体験活動」について、現状と課題、そして今後求められていることや方向性について、各担当者が講話を行いました。参加者からは「基本的なことを一つずつ聞くことができた。明確に理解しやすい内容だった。」「1年の経験を経て受講し、より理解が深まった。」など、社会教育に対して幅広い知識を得ることができたという感想が多く見られました。</p>

【研修2】演習・活動「研修で活用できるレクリエーション」

社会教育総合センター調査・研修班 社会教育主事 瀬之口 紘史



【研修2】では、研修で活用できるレクリエーションを行いました。当センターで行われている「仲間づくりプログラム」を参考に、レクリエーションの意義を学び、実際にアイスブレイクとイニシアティブを体験してもらいました。アイスブレイクでは、誕生日や好きな教科のグループを作り、名刺交換を行いました。イニシアティブでは、新聞紙で作ったタワーにボールを乗せて安定させる「卵星人からの挑戦状」という活動を行いました。参加者からは、「体験することで、レクリエーションの重要性を実感でき、その後の話がしやすかった。」「レクリエーションの意義や、どのようにつなげるかが分かった。」などレクリエーションに対する考え方が変わったという感想が多く見られました。

【研修3】演習「Well-doing するために」

社会教育総合センター調査・研修班 社会教育主事 瀬之口 紘史



日頃の業務を能動的に Well-being の状態にするために何ができるかを探るため、「ワールド・カフェ」の手法を使って、意見交換を行いました。より多くの参加者同士が出会い、気軽に話し合える関係性を気づきながら、自分の中になかった新しいアイデアや気づきを得てもらうことを意図して設定しました。参加者からは、「ワールド・カフェ方式は多様な意見を聞いて非常に意味があると感じた。」「明日から心掛けたいことが増えた。これからの仕事に役立ちそう。」「人との関りや仲間と考える大切さを感じた。新たな視点やアイデアを得られる。」などの交流を通して、様々な意見を行くことの大切さに気付いたという感想が多く見られました。

参加者の声

- ・講師の方々の説明がわかりやすくてよかった。勉強になることが多かった。
- ・社会教育について知れた。また業務に生かせることを得られた。
- ・たくさんの方々と交流し、いろいろな話を聞いて大変満足している。
- ・今の仕事を作業としてこなさず、どんな未来をつくりたいのかを具体的にイメージすることが大切と知った。